

臨

前

兵

在

開

烈

者

牌

皆

平成二十年

# 鶴之破魔札

迎福除厄 諸病平癒 諸願成就  
旅行安全 延命長壽 子孫繁榮  
火災消除 諸緣吉祥 極樂往生  
出世開運 家運隆昌 衆生濟度

五穀豐穰 商売繁盛 無病息災  
開運招福 良緣招來 恋愛成就  
交通安全 學業成就 芸能上達  
健康長壽 勝運必勝 降魔退散

南無八幡大菩薩



世は平安の時代駿豆の古奈の菖蒲

かつて山中にて異形の妖怪に出会いけり

その者神通力をもつて人に厄なすといわれけり

異形のため忌み嫌われし妖怪の

人の出会いはその誤解の解き初めしが遅かりし  
源三位頼朝公これを悲しみのうちに討ち果たし  
彼の恋の成就せり

かつて忌み嫌われし妖怪の

その因縁の悲哀人知れず

現世において菖蒲の思に偲ばるる妖怪の

その神通力

人の世に厄祓い魔を打ち破るるものなり

妖怪の異形の様に過たずその御心の救いしは

菖蒲の優しき思に他ならず万世博愛衆生済度

この御札の由来は、私たち伊豆の国市商工会青年部が、西暦二〇〇〇年より積み重ねてきた郷土歴史研究により、二〇〇六年に製作された創作民話『伊豆長岡温泉鶴悲哀物語』に基づいています。

また、四〇〇年ほど前に行われていた「ぬえばらい」は、当時村に不慮の災害が相次いで起こり、更に疫病が流行して猛威をふるっていたおり、豪農、茂工門の息子、佐兵衛も病の床に倒れました。

豪農、茂工門の息子、佐兵衛も病の床に倒れました。  
日毎に衰弱し、昏々と眠りながら、  
急に、ぬえ、ぬえ・・・・・と異様な  
叫びを上げ、また、眠り、そして、ぬえ、ぬえ・・・・・と、  
断絶して叫びました。

村の人々はこれが最後かと泣きの涙に暮れるばかり。  
茂工門は、むかし京都にて帝をなやましたぬえを退治した  
源頼政にあやかり、村人たちとぬえばらいを行ったところ、  
災難、疫病も治まり、村は平静を取り戻したといいます。

この「鶴之破魔札」をもつて、皆様の厄除けとし、  
幸せな暮らしを営めるよう祈願いたします。